

令和元年度 第1回浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

議事要旨

日時：令和元年6月5日（水）

午後2時～4時

会場：市役所10階 協働会議室

<出席委員>

野島	正也	会長
藤田	朗	副会長
野川	春夫	委員
関谷	昇	委員
米山	泉	委員
影山	栄子	委員
吉野	忍	委員
武澤	秀明	委員
工藤	真由美	委員
福元	明彦	委員
長島	康晴	委員
阿部	信之	委員
上野	実千代	委員
登内	明	委員

<欠席委員>

なし

<議 事>

1. 開会
2. 議事
 - (1) 策定スケジュールについて
 - (2) 計画素案について
 - ・第2次生涯学習推進計画
 - ・生涯スポーツ推進計画
3. その他
4. 閉会

<配布資料>

- 【資料1】第2次生涯学習推進計画・生涯スポーツ推進計画 策定スケジュール
- 【資料2】第2次生涯学習推進計画・生涯スポーツ推進計画 素案
- 【参考資料】第2次生涯学習推進計画・生涯スポーツ推進計画 中間報告書

- ・開会前に委嘱状の交付が行われた。

1. 開会

会長よりあいさつが行われた。

教育委員会を代表して教育長よりあいさつが行われた。

2. 議事

(1) 策定スケジュールについて

事務局より議事（1）策定スケジュールについて説明が行われた。

（委員） 年内にあと2回懇談会を開催する。意見がなければ次の議題にうつる。

(2) 計画素案について

- ・第2次生涯学習推進計画について

事務局より説明が行われた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

（委員） 基本目標は現行計画から踏襲するということで決定か。変更も検討してもよいかもしれない。

（事務局） 計画の方向性に大きな変化はないと考え、生涯学習推進計画の基本目標は現行計画を踏襲している。新たにスポーツでは基本目標を整理している。

（委員） P17 施策の体系の中で「重点」の記号があるが、この施策はどのような位置づけなのか。

（委員） 他の施策と異なる扱いとなるのか、重点的に取り組むという意思表示なのか、わかるとよい。

（事務局） 第4章の「重点的な取組」に関連する施策に「重点」の記号を付けている。調査結果のほか、懇談会の提言等もふまえて特に力をいれて推進する施策を再度取り上げた構成としている。

（委員） P17の「重点」とP29の「重点的な取組」がどのように関連しているかが、少しわかりにくい。人材育成の観点でP29には抜けているのではないか。また、伝統文化についてもふれられているとよい。

（事務局） 第4章の内容は意見をもとに修正内容を検討する。

（委員） P19に障がい者の学習支援とあるが、第4章の「重点的な取組」で取り上げるのであれば、もう少し取組や施策の中身の充実を図った方がよい。

（委員） 障がい者の学習支援について、ハード面だけでなく、当事者の

意識喚起も重要だと感じている。また、一人ひとりの状況に応じたサポートができる人材の育成も重要である。

(事務局)

修正を検討する。

(委員)

重点的な取組の情報提供の充実や障がい者への配慮は、昨今の情勢からすると、特別視することではなく、当然のこととも言える。今後 10 年間の方向性を示すのであれば、「時代に即して柔軟に対応していく」といった表現でもよいかもかもしれない。

(委員)

第 5 章で拠点となる施設があげられているが、これ以外にもあるのではないか。こうした市民の学習活動を行う現場からフィードバックを受けて、施策の見直し等を行っていくことが重要だと考えている。現場の状況を把握して柔軟に対応できる計画であるとよい。職員の資質向上は重要な視点だと思うが、市民の学ぶ姿勢も同じくらい重要になると思う。

(事務局)

計画の進行管理につながるご指摘だと思うが、この点は事務局でも結論が出ていない。どこまで取組ができるかと合わせて、検討していく。

(委員)

10 年間でどのように P D C A を回していくかが重要である。

P 4 ではもう少し具体的な記述ができるとよい。

P 25 の職員の資質向上について、社会教育の専門性を有した社会教育主事の適切な配置あるいは有資格者の人材活用について検討していけるとよい。また、学校教育においても地域との連携を進めていくうえで、社会教育主事が果たす役割が大きいと考えられることから、生涯学習部局以外での活用方策も検討していけるとよい。

(委員)

6 点ある。1 点目、P 3 で示されたとおり他の計画との連携・整合を図った計画となるとよい。

2 点目、P 18 のライフステージでセグメントに分けることも重要だが、それぞれのステージで学びっぱなしにならないように、異世代交流といった視点も重視していけるとよい。

3 点目、P 20 の基本施策 1-2 生涯学習情報の提供について、あらゆる主体が個別に発信している情報を集約できるとよい。また、市民のニーズに対して的確に情報を提供し、ミスマッチをなくしていく交通整理の方策を検討してほしい。

4 点目、P 22 の②団体間の交流については、生涯学習に限らずまちづくり等の他分野の団体との交流も促進していけるとよい。

5 点目、例えば困難な状況のある家族や子どもに対する施策はいくつかあるが、施策の合間で抜け落ちてしまう場合がある。

こうした点に対して、関係者が話し合う場を設けられるとよい。6点目、P29は3点を包含するコンセプトのようなものをリード文の中で表現できるとよい。例えば、市民のだれもが、どのような状況の置かれていても学ぶことができる環境をつくること、成熟した社会の中で自ら学んでいく意欲を喚起していくことを示せるとよい。

・生涯スポーツ推進計画について

事務局より説明が行われた。各委員からの主な意見は以下のとおり。

(委員) 6月から「浦安市スポーツ協会」に名称を変更したことを反映してほしい。「生涯スポーツ健康都市宣言」の認知度は依然として高くはないと感じている。現状を検証して、対策を検討していくべきではないか。

障がい者への配慮は、生涯学習と同様に今後の課題だと感じている。スポーツ協会でも新たに取組を行った。この経験を今後も活かしていきたい。

eスポーツが巷で盛り上がっているが、個人的にはこの計画におけるスポーツには当てはまらないのではないかと感じる。

(委員) eスポーツの取り扱いは事務局で検討してほしい。

(委員) P49では障がい者スポーツ指導員の養成についてもふれられるとよい。

P59の「みる」「ささえる」スポーツ機会の充実について、「障がいの有無にかかわらず」という表現を追加できるとよい。

(事務局) 修正を検討する。

(委員) 4点ある。1点目、生涯学習と同様、第1章にスポーツの定義を示すかどうかを検討できるとよい。新たにアーバンスポーツも盛り上がりを見せており、そうした環境がある浦安市における定義を整理してもよいかもしれない。

2点目、この計画が終了する10年後は人口構成も大きく変化し、高齢者もさらに増えることで社会の課題も複雑化していくであろう。そこで、スポーツによる健康寿命の延伸についても、話題としてふれておいてもよいかもしれない。

3点目、国でも議論が進んでいるが、スポーツインテグリティの考え方も入れ込めるとよい。

4点目、「生涯スポーツ健康都市宣言」の認知度が低いことに対しては、しっかりとプロモーションをしていけるとよいだろう。

う。海外では優先順位をつけ、短期間で重点的に施策を推進することもある。

- (委員) 重点的な取組の位置づけや構成がわかりにくい。P59でも目新しいことが書かれていないように思う。既存のイベントを記述するだけでなく、これからの10年で、新たにどういうことに取り組んでいくのかということ、わかりやすく示せるとよい。
- (委員) 生涯学習推進計画の部分と合わせて修正できるとよい。
- (委員) 生涯学習推進計画に対しても意見があったが、生涯スポーツ推進計画でも重点的な取組を総括する視点を示せるとよい。
- (委員) 学校は今、地域と連携していくうえで変革期にある。市民のスポーツを推進していくうえで、受け皿になるとよい。ライフステージ等に応じた施策を設けて、より多くの市民がスポーツに取り組む環境を充実していくことを強調できるとよい。
- (委員) 運動部活動のあり方についても議論が進められている。学校教育推進計画との整合性を図っていけるとよい。
- (委員) 教員の働き方改革の流れで運動部活動のあり方も変化していると感じている。スポーツをしたいと考える子どもを学校だけでなく地域でフォローしていけるとよい。また、その際には地域間で格差が発生しないようしくみを考えていけるとよい。
- (委員) この計画は学校とも密接に関連する。学校・家庭・地域が連携して施策を推進していけるとよい。
- (委員) 浦安市は人口が増加傾向にあるが、スポーツをする人は減っていると感じる。スポーツの参画人口を拡大していくという主旨を記載できるとよい。
- (委員) スポーツの定義をどのように位置づけるかということも重要になるだろう。
- (委員) 今後10年間の計画ということをもふまえると、スポーツをする場の安全・安心の確保ということも記述できるとよい。市民のスポーツ環境を維持していく視点も重要である。

4. その他

- (事務局) 追加意見がある場合は、後日、送付する意見シートを提出していただきたい。次年度以降の懇談会の開催については、あらためて連絡する。

5. 閉会

以上